



神の愛を探求し続けた作家

休み前に、「クリスマスコンサート」や「クリスマスライブ」など、いろいろな催しがあって、13Rの諸君もご活躍中である。先週末には、●●さんが軽音楽部のライブの案内をしていたが、●●さんや●●ちゃんも出演して盛り上がったことであろう。昨日は、●●さんが合唱部の、●●くんがオケ部のコンサートの案内をしていたが、授業をやりながら色々なクラスの黒板をみていると、ダンス部のライブもあるようだ。実は誰も知らないが、生物部が飼育しているカエルにサンタの衣装を着せる…などという催しがあったりするのだろうか（いや、ないだろう…反語）。運動部も、クリスマス会を予定していたりする部もあるようだ。

私は昨日、社会科教室で行われた演劇部の公演を見に行った（その途中、合唱部のコンサートも廊下からドア越しにちょっとだけ聞いてみた）。年末には、一年のまとめをしたり新年に向けての準備をしたりする関係で、けっこう色々な会議があったりするし、担任をしていると、成績に関する仕事があったりするのだから、放課後はそれなりに予定が詰まっているのだが、昨日はたまたま何もなかったのだから、同じ国語科のT畑先生が顧問をしてもらっしやることもあって、ちょっと覗いてみたのである。「しろやぎさんとくろやぎさんと」という微妙な（笑）劇であったが、劇そのものよりも、会場のど真ん中で照明係をやっていた●●くんが、熱した照明器に触って「アチチ…」と言っていたことの方が印象的であった（笑）。

*

さて、「冬物語」や百人一首に苦しめられるだろうことは十分に予想されるこの冬であるわけだが（笑）、国語科の教員としては、休みの時は読書もしてほしいと思うのである。とくに、前回の模試で「小説の出来が評論に比べると今一つだった」という講評を得ているだけに、まあ読書したからといってそう簡単に小説の読解力が高まるわけではないのだが、それでも短くても読み応えのある小説を2冊ほど紹介するので、時間があったら挑戦してみしてほしい。

一つ目は、まもなく封切られるマーティン・スコセッシ監督の最新作「SILENCE」の原作である『沈黙』（遠藤周作、新潮文庫）。江戸時代、切支丹禁制下の日本に潜入した宣教師ロドリゴを主人公に、苦しむ信徒に対して「沈黙」を続ける神とは何なのか、と問うことがテーマになっている。構成が凝っていて勉強になるので、まずYouTubeなどに公開されている映画の予告編を見て、興味をもたらずに読んでみてほしい。

もう一冊は、同じ遠藤周作の『海と毒薬』（新潮文庫）。戦争末期に九州大学医学部で行われた米軍捕虜生体解剖事件を題材に、罪の意識を追求した名作である。暗い話ではあるが、戦争の非人間性や、医師としての倫理といった観点からも読むことができるので、わずか200ページたらずの作品でもあり、こちらもぜひ挑戦してみしてほしい。

ちなみに、作者の遠藤周作さんについては便覧の301ページに解説があり、「神の愛を探求し続けた作家」と解説されている。